

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	改善方法	
	全体レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見		
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	1 学習指導の充実 ・生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習する習慣の定着を図る。 ・基礎・基本の確実な定着と応用力の育成及び個性を生かす教育の充実を図る。	[教務課] ・生徒の進路希望に沿った選択科目の開講及び少人数授業の充実 [進学課] ・家庭学習時間 学年+1時間 ・早朝補習 年間100回以上実施 ・早朝補習 出席率95%以上 [学力向上委員会] ・授業公開 年2回以上・授業見学 年3回以上・生徒の授業への満足度80%以上 [学校改革推進委員会] ・研修会の実施 年2回以上 [学年] ・基礎・基本となる力の定着 ・自主学習時間の確保・上記を組織的に指導するため、担任会の充実、各学期に2回以上の学年集会実施	[教務課] 単位制を活かし、生徒の進路や希望に沿った選択授業及び少人数授業を可能な限り展開。 [進学課] ・家庭学習時間 1年平均2.14時間、2年平均2.51時間、1年生は目標達成 ・年間102回実施し、目標達成。 ・出席率94.8%で達成に至らなかった。 [学力向上委員会] ・授業公開年2回、授業見学は平均3.1時間と数値は低いが達成 ・生徒の授業への満足度は全教科で非常に高い値を示している。 [学校改革推進委員会] ・研修会を1回、アクティブ・ラーニング週間を2回。 ・能動的な活動を取り入れた授業公開を2ヶ月に1回以上実施し、研修を行った。 [学年] ・各学期2回以上学年集会を実施・面談充実。学習記録、模試成績を活用し、学習のあるべき姿を生徒に示せた。	[教務課] (評価)A 可能な限り選択科目を開講し、少人数授業を展開できた。 [進学課] (評価)B 数項目で指標未達成。 [学力向上委員会] (評価)A アクティブ・ラーニングを中心とした公開授業を通して生徒の積極的な取組が見られ、アンケートでも好評 [学校改革推進委員会] (評価)B アクティブ・ラーニングを中心とした授業を推進したが、学校全体で取り組むことまではできなかった。 [学年] (評価)B 学習の習慣化には、一定の成果あり。内容定着に課題が残った。	生徒は学校生活について概ね満足している。アンケート結果や評価をさらに次の指導に生かしてほしい。 アクティブ・ラーニングや体験活動を通じて様々な力をつけてほしい。 [学校改革推進委員会] (評価)B アクティブ・ラーニングを中心とした授業を推進したが、学校全体で取り組むことまではできなかった。 [学年] (評価)B 学習の習慣化には、一定の成果あり。内容定着に課題が残った。	[教務課] 限られた教員での選択 ・少人数の授業展開。 変更が容易な時間割編成が課題。 [進学課] 本校の強みや課題を再検討し、行事の精選・内容改訂で、効果的かつ持続可能な指導を進めていく。設定評価指標を下げることなく努力や改善に努める。 [学力向上委員会] 見学にとどまらず、目的をより明確にし、価値ある学びにしていけることが課題。全教師が見学できる工夫を。 [学校改革推進委員会] 生徒に身につけさせたい力、教育目標の一つにし、授業実践する必要がある。公開授業だけでなく研究協議を行う機会を十分に作る。 [学年] 受動的な学習を主体的な学習へどう転換させるかが課題。教員が問題意識を持ち、課題や授業のあり方を改善していなければならない。
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			
		[進学課] ・学習習慣の定着 ・部活動と学習の両立 ・基礎学力の向上 [学力向上委員会] ・授業力の向上 [学校改革推進委員会] ・授業力向上のための研修会 [学年] ・課題(日々のプリント、週間プリントなど)の有効利用 ・予習→授業→復習のサイクルを習慣化し、学習内容の定着	[進学課] ・「学習の日」の設定と学習時間調査の実施 ・早朝補習の充実 [学力向上委員会] ・公開授業の実施・授業評価アンケートの実施 [学校改革推進委員会] ・大学新入試に対応する力を身につけるための研修会の案内と実施 [学年] ・課題の確認 ・「為せ成るノート」で学習時間を確認し、生徒一人ひとりに徹底させる。 ・同ノートを活用した面談を年間5回以上	[進学課] ・学習の日・早朝補習ともに、全職員が協力し計画的に実行できた。 [学力向上委員会] ・公開授業2回、授業評価アンケートを2回実施し、教員の授業力向上に努めた。 [学校改革推進委員会] ・新入試に対応する研修会は、他校公開授業や教育委員会主催会について毎回案内。 ・アクティブ・ラーニングの研修会を、1回実施 [学年] ・課題の提出を徹底、学習の習慣化に一定の効果を上げることができた。 ・「為せ成るノート」の評価(生徒2.34、職員2.72)は目標値未達成。生活実態、悩みの把握には一定の効果を上げることができた。 ・「為せ成るノート」、模試成績を活用した面談を年間5回以上実施		
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	全体レベル	評価指標	評価指標による達成度			
	1 学習指導の充実 ・生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習する習慣の定着を図る。 ・基礎・基本の確実な定着と応用力の育成及び個性を生かす教育の充実を図る。	[教科] 1)国語 ①日々の課題の提出率90% ②小テスト内容の定着度95% 2)地歴・公民 ①小テスト正答率80% ②小テスト定着率95% 3)数学 ①週プリントの提出率90% ②週明けテストの実施と再テスト合格率100% 4)理科 ①実験・観察等の授業を年間3回実施。 ②ノートや課題の提出90%、小テスト等の実施。 5)英語 ①各提出物の提出率90% ②語彙力・文法力小テストの正答率70%以上	1)国語 ①の提出率は90%を超えている。②は覚えるべき事は丸暗記してその都度その都度に定着はしている。 2)地歴・公民 ①単元終了時の問題演習では低調。 ②再出題した定期考査では正答率向上。 3)数学 ①②ともに計画通り実施できた。 4)理科 ①実験・観察や演示実験等を取り入れた授業を年間3回実施できたのは、ほぼ70%の授業。また、高大連携授業を2年生で2回実施。 ②提出率達成。小テスト基礎を附さない科目で実施できた。 5)英語 ①提出率90% ②正答率1年単語テスト60% 2年70% 3年文法60%	1)国語 (評価)B 提出率は達成、しかし答えの丸写しが1/3程度、小テストでは内容把握に使えていない生徒が多い。提出物・小テストは基礎力の定着に効果あり。授業中の取り寄せ方に改善の余地あり。 2)地歴・公民(評価)B 問題演習は計画通り実施 正答率は未達成 3)数学 (評価)B 計画通り実施 基礎学力定着は成果あり 4)理科 (評価)B 実験観察やA/L高大連携授業の実施で、生徒の興味関心を喚起できた。提出物や小テストで基礎学力定着に成果	アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、充実した授業展開がされていることがよくわかった。 生徒には自助努力の必要性を論じ、個々には苦手教科の学習法について、専門の先生方から指導助言を行ってほしい。	1)国語 定着させた知識を文章理解力・表現力に生かすことに繋げる授業に一層力を注ぐ。 2)地歴・公民 問題演習に至るまでの授業内容の充実、演習への取組に向けた動機付けに留意。 3)数学 提出率だけでなく、自ら取り組む姿勢を高め、いく仕掛けが必要。 4)理科 授業内容を精選し、実験・観察の時間を確保できるように、計画的に授業を進める。
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			
	[教科]	[教科]	1)国語			

	<p>○基礎・基本の徹底と定着 ○学習指導法の改善 1) 国語…言語に関する知識・理解の深化・特に読む・書く力の向上 2) 地歴・公民…わかる授業の実践・基礎基本の徹底 3) 数学…基礎・基本の徹底・思考力の育成 4) 理科…自然について探究する能力と態度を育成し、科学的思考力を養わせる。 5) 英語…家庭学習習慣を身につけさせ、基礎基本事項の定着</p>	<p>1) 国語 ①日々の課題の配布と確認 ②古典の毎時間の小テスト実施 2) 地歴・公民 ①小テスト実施（週に1回程度） ②模試の過去問に取り組みさせる。 3) 数学 ①週プリントの配布と確認 ②週明けテストの実施 ③模試の過去問に取り組みさせる。 4) 理科 ①実験・観察のレポート作成により、考察する力を養成。②ノート整理や復習を通して、基礎・基本の定着。 5) 英語 ①語彙・文法・読解の課題を与え、定期的に小テストを実施し、事後指導をする。</p>	<p>①②とも計画通り実施 2) 地歴・公民 ①単元終了ごとに問題演習を実施 ②各科目で過去問に取り組みさせた。 3) 数学 ①②③ともに計画通り実施 4) 理科 ①実験・観察のレポート作成またALにより、数多く考察させた。 ②ノート整理や復習を通して、基礎・基本の定着がすすんだ。 5) 英語 1, 2年では毎日課題を提出。小テストは1年週3回, 2年4回, 3年2回, 計画通り実施し、事後指導を行った。</p>	<p>あり。 5) 英語（評価）B 提出率は目標達成 小テスト正答率は2年のみ達成</p>	<p>5) 英語 課題の与え方を工夫し小テスト正答率を高める。事後指導を徹底して基本事項の定着を図る。</p>
--	---	---	--	---	---

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
------	--	--	--	---------	----------

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	改善方法
------	------	-----------	----	--	----------	------

	全体レベル	評価指標	評価指標による達成度		総合評価・所見	
生徒個々の進路希望を実現するための情報提供及びキャリア教育の推進	<p>2 進路指導の充実 ・進路への興味関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 ・生徒の多様な能力、適性、進路希望に応じた、系統的・組織的な進路指導に取り組む。</p>	<p>[進学課] ・大学出前授業や進路講演会を各学年、各学期1回以上実施 ・センター試験出願者70%以上 [就職課] 1) 公務員説明会及び自衛官説明会を各1回以上実施するとともに、校外での説明会に積極的に参加させる。 2) 2年生対象に本校主催のインターシップを実施し、30人以上生徒参加。 3) キャリア教育を推進させるための研修会を1回以上実施する。</p>	<p>[進学課] ・講演会等の対象学年と実施回数 大学出前授業：1・2年1回 進路講演会：1・2年1回 学習セミナー：1・2年各2回・3年1回 小論文講演会：1・2・3年各1回 志望理由書講演会：3年1回 進路説明会：3年1回 ・センター試験出願者215/315(68.3%) [就職課] 1) 公務員説明会・自衛官説明会 実施回数2年で各1回・就職がイグネス(校外)：3年2回 2) インターシップ参加者：23名 3) キャリア教育推進研修会は実施できなかった。</p>	<p>[進学課] (評価) B ・講演会等の実施は生徒の進学意欲の醸成に大きな効果があった。 ・センター試験出願者は昨年度比約8%増加したが、評価指標には届かなかった。 ・各学年の進路指導は、学年・担任・進学課を中心に全教職員が一致団結して取り組むことができた。</p>	<p>社会が変化し、進路選択が多様化する中、生徒は自分の進路選択に迷っていると思われる。高校時代が進路の幅を広げるための学力充足の時期であることを自覚させ、3年計画で粘り強く生徒をサポートしてほしい。</p>	<p>[進学課] ・生徒の学習意欲向上のために、より効果的な時期に講演会等の行事を実施し、生徒の学習意欲を高めるとともに、評価指標は下げることなく、次年度もセンター試験に向かう生徒の割合を増やす努力を継続する。 [就職課] ・職業に対する関心を高め進路につながるインターシップやキャリア教育の講演会等を継続して実施する。</p>
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況		<p>[就職課] (評価) B ・説明会の実施は進路を考える方法となる効果があった。 ・就職がイグネスは就職希望生の意識や心構えの意欲向上に大きな効果があった。</p>	
規範意識の一層の向上とルールを守りモラルやマナーを大切に	<p>3 生徒指導の充実 ・基本的生活習慣の確立を図り、節度と品位のある礼儀正しい生活態度を育成する。 ・生徒の生活状況に応じた支援を行うとともに、安全教育を徹底する。 ・いじめの早期発見、解決に</p>	<p>[生徒指導課] 1) モラルやマナーの指導を通じ、学校全体で社会規範意識の育成に努める。 2) 交通事故を前年に比べ10%削減(H28年-20件) 3) いじめを許さない指導。</p>	<p>[生徒指導課] 1) モラルやマナーの指導を通じ、学校全体で社会規範意識の育成に努めている。保護者・生徒・教員共に評価A 「遅刻指導・入室許可証について」遅刻指導については生徒の実態や保護者の事情により弾力的に運営した。生徒・職員共に評価A 2) 「交通安全教育に対し、学校を上げて取り組んでいる」の保護者・生徒・教員共に評価A</p>		<p>[生徒指導課] (評価) A ・遅刻者の指導は、日々の立哨指導・駐輪指導を通じて指導の成果がみられる。 ・交通事故件数は減少傾向。 ・自転車マナーは、規範意識の向上の継続的指導が必要。</p>	<p>[生徒指導課] ・遅刻者の指導については、日々の立哨指導・駐輪指導の成果がみられるので、継続していく。 ・交通事故については重大な事故につながる危険性があるの</p>

いじめを許さない心の育成	努める。		12月末現在、登下校時の交通事故20件。 3)いじめを許さない指導・取り組みへの評価は、保護者・生徒・教員共にA	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いや職員室での態度については非常によくなっている。 ・携帯電話の使用もマナーを守り正しく使用できている。 ・いじめは、直接的なものでは確認できないが、いじめにつながるおそれのある言動等が少しある。 	通行が中学生では十分できていなかった ので、引き続き指導が大切である。	で、自転車マナーについて規範意識の向上の継続的な指導が必要である。 ・いじめについては、いじめにつながるおそれのある言動等が少しあるため注意深く継続的に観察する必要がある。
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			
	[生徒指導課] 1)マナー指導の強化 ①頭髪服装指導の強化 ②言葉遣いや職員室での態度を改善 ③校内における携帯電話の使用方法の改善 2)安全教育の徹底 3)いじめ調査アンケートの実施と活用	[生徒指導課] 1)学校行事や学年集会の際に実施するとともに、日常的に随時行う。 2)交通安全講話の実施 ①学期ごとに一斉指導を実施 ②クラスごとに年1回の交通安全ホームルーム活動を実施 ③学年集会等での注意喚起 3)7・3月にいじめ調査アンケートを実施し、現状を把握、担任面談等に活用する。	[生徒指導課] 1)全教職員の共通理解を図り、指導の統一を図った。 ①各学期の始業式後、全職員が各学年ごとに生徒1人1人の頭髪服装を確認し、改善できるまで丁寧な指導を行った。全職員が機会を捉えて指導し、改善できた。 ③校内における携帯電話の使用状況はかなり改善された。 2)1年生を対象に携帯電話の安全教室を5月9日に開催した。 ①全教職員による交通一斉指導を4・9・1月と3回実施 ②交通安全ホームルーム活動を1回実施。自転車整備点検は4月14日に実施 ③全教職員の協力により学期当初のほぼ計画通り実施できた。 3)いじめ調査は7、3月(予定)に実施し、結果を担当に連絡した。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	改善方法

豊かな心を育み、幅広く調和のとれた人材の育成と人権教育活動の充実	全体レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見	特になし [人権教育課] 次年度高人研にむけてよりいっそう人権教育の充実を図りたい。
	4 人権教育の推進 ・教育活動全体を通して人権についての知識を深め、豊かな人間性や互いに尊重する態度を育成する。 ・人権尊重の精神の積極的な啓発に努め、人権意識の高揚を図る。	[人権教育課] 1)人権ホームルーム活動に対する評価 A 2)人権啓発紙の年間発行回数12回以上 3)「人権関連学校行事」の生徒評価 A 4)各教科における人権学習・人権教育を計画的に実施 5)生徒対象の講演会などを年2回以上実施 6)育職員研修会を年間3回以上実施	[人権教育課] 1)生徒の人権ホームルーム活動に対する評価はA 2)人権啓発紙「雑草」の発行回数は3回にとどまった。 3)「人権関連学校行事」に関して生徒評価はA 4)指導計画に則り、計画的に実行 5)生徒対象の人権教育講演会を年2回以上実施 6)全体の人権教育研修会を年間3回以上実施	[人権教育課] (評価) B ほぼ計画通り実施できた。	
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況		
	[人権教育課] 1)高人研大会に向けて、HR活動の充実 2)啓発企画紙の充実 3)人権集会・人権ウィークスへ向けての取り組みの充実 4)各教科における人権学習・人権教育の推進 5)生徒対象の人権教育講演会の実施 6)人権教育教職員研修会の充実	[人権教育課] 1)各クラスの状況に合わせて資料を集めて選択し、展開を工夫する。 2)人権啓発紙を年12回以上発行する。 3)人権集会・人権ウィークスに向け、4月から取り組み、内容の充実した展示を行う。 4)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施する。 5)講演会・映画会を年2回以上実施する。 6)人権教育職員研修会を年間3回、学年別研修会を各学位年で年1回以上実施する。	[人権教育課] 1)各クラス共に充実した資料を用い、工夫されたHR活動となった。 2)人権啓発紙の発行は3回にとどまった。 3)人権集会、人権ウィークスに向け、充実した展示を行った。 4)指導計画に則り、計画的に実行 5)人権教育講演会を年2回以上実施 6)全体研修会を年間3回以上、学年別研修会を各学年1回以上実施		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	改善方法

部活動のさらなる活性化を図るとともに、生徒会や各種委員会の諸活動を充実する。	全体レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見	部活動には熱心に取り組んでいる。少数の否定的な意見も取り込み反映させてほしい。 [特別活動課] 1)更なる部活動の活性化、城北祭・球技大会を含めた学校行事への生徒の参画を図る。 2)生徒会活動については、より一層の広報に努め多くの生徒に理解と活動への協力を求める。
	5 特別活動の充実 ・生徒の主体的運営を基本として、各種活動に取り組むことのできる学校行事、生徒会活動の充実を図る。 ・部活動を充実・活性化させ、生徒の精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力心を育成する。	[特別活動課] 1)部活動入部率90%以上、部活動の教育貢献度の教職員・保護者・生徒評価A 2)生徒会広報の発行等により、生徒会や各種委員会の活動をPRする。生徒会活動・各種委員会活動の教職員・生徒の評価A 3)球技大会や城北祭の学校行事について教職員・生徒・保護者の意見を取り入れ、効率化と活性化を図る。教職員・生徒評価A	[特別活動課] 1)本年度の入部率は85%で目標値にもう一步、1・2年生では92%・90%。部活動への評価は、生徒からは「魅力的部活動がある」と81%余りの肯定意見がある。 2)9つある委員会それぞれ課題に応じた活動を行っており、教職員・生徒からの評価A 3)城北祭を始めとする学校行事については、生徒からも「自主性・主体性を養うことができた」で82%余りの肯定意見もあり、評価A	[特別活動課] (評価) A 計画どおり活動できた。	
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況		

	<p>〔特別活動課〕 1)部活動連絡協議会を開催とより一層の部活動の活性化を図る。 2)生徒会活動についての積極的広報と生徒会活動への理解と協力を促す。 3)各種委員会の活性化を図る。 4)球技大会・城北祭の活性化を図る。</p>	<p>〔特別活動課〕 1)部活動連絡協議会を年間3回開催し、部員自らの取り組みで部活動活性化を図る。 2)生徒会中心で学校行事への参加を促進し活動の活性化を図る。また生徒会新聞を発行し、活動を生徒や保護者にアピールする。 3)各種委員会活動を活性化し、生徒が主体的に学校生活に取り組めるようにする。 4)生徒会役員を中心に球技大会・城北祭の準備委員会を組織し、企画運営にあたる。</p>	<p>〔特別活動課〕 1)部活動の活性化を図るための連絡協議会は、年度当初に予算審議等で2度開催 2)生徒会からのお知らせは随時、行っている。役員改選時にはプロフィールを含め、今後の活動について広報を行った。 3)各種委員会の活性化は、クラス役員改選後、前後期の活動計画を作成し、全校生徒の前で活動報告を行うなど委員会活動への理解を促した。 4)城北祭の運営は、生徒会主体の前日祭とクラス中心の文化祭・体育祭で構成、各クラスに応じた参加・運営がなされた。 球技大会は、体育委員会を中心として運営業務を担っている。</p>			
--	---	---	--	--	--	--

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
------	--	--	--	---------	----------

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	改善方法
------	------	-----------	----	--	----------	------

	全体レベル	評価指標	評価指標による達成度		総合評価・所見		
環境問題の理解と身の回りの環境美化実践および防災意識の啓発	<p>6 安全・環境防災の推進 1)校内環境を整え、公共心や豊かな情操を育成する。 2)環境にやさしい学校を目指し、エネルギーの利用や物品の使用を効果的にする。 3)災害発生時に適切な対応ができる防災体制作りを努める。</p>	<p>〔環境防災課〕 1), 2)新学校版環境 ISO 中間報告会での評価 A を目指す。 3)年間に防災避難訓練を1回、机下避難訓練を2回実施する。防災クラブの活動を進める。</p>	<p>〔環境防災課〕 1),2)職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源保護に取り組めた。 2)環境委員や生徒会と連携し、電灯等使用量やエアコン使用量、水道使用量、校内産出資源の分別再利用を進めた(評価A)。 3)防災避難訓練を5,9月に実施。グラウンドへの避難や資料映像により災害について学習。その他、6,11月に実施の南海トラフ地震対応訓練に参加し、初期対応訓練(机下避難訓練)を校内実施した。校内に災害避難啓発掲示板を設けて、災害の危険性や避難の仕方などを啓発展示</p>		<p>〔環境防災課〕(評価) A 新学校版環境 ISO に関する活動事項について、生徒は協力的に取り組んだ。生徒会役員と環境委員が特に積極的に取り組み、節電・節水、校内産出資源の分別再利用や啓発ポスターの作成、ペットボトルキャップ回収、学校祭のゴミ箱設置・管理等をやり遂げた。PTA 役員・部活動保護者会だけでなく多数の方が参加して校内環境が整った。文部科学省、気象庁、徳島県等が企画した危機管理訓練に参加。定期的訓練により基本事項の確認ができた。</p>	<p>生徒には体験活動などを通じて、様々な力をつけてほしい。</p> <p>〔環境防災課〕 担任からの連絡による周知徹底と意識付け。環境委員によるクラス及び全校集会において直接の呼びかけの徹底。啓発事項 ①自然災害への対応 特別警報、風雪災害等 ②東南海地震 への対応 初期避難防災避難訓練</p>	
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況				
	<p>〔環境防災課〕 1)環境委員を中心としてさまざまな活動を通して意識啓発をする。 2)生徒会と環境委員を中心として啓発を推進する。 3)防災委員活動を通して、知識や実践力を身につける。</p>	<p>〔環境防災課〕 1)クリーンキャンペーンを年間2回、保護者・生徒・職員組織で年1回除草清掃作業を行う。 2)ゴミ分別や節電・節水・紙の3R活動を推進する。 3)防災研修会への参加や防災に関する学校行事を行う。防災クラブ活動を進め、防災掲示板等による啓発も進める。</p>	<p>〔環境防災課〕 1)5月26日、10月13日にクリーンキャンペーンを実施。8月28日にクリーンアップ作戦を実施。多くの参加希望者により、校内及び周辺を清掃することができた。 2)職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。新学校版環境 ISO に掲げる節水・節電・ごみ分別では、よい成果が出せた。啓発ポスターにより、達成度を広く周知した。 3)環境委員会を中心に災害避難訓練を実施。防災センターでの研修に参加。防災掲示板を西渡り廊下に用意し、地震、台風、風雪等季節に応じて防災啓発。文化祭では、防災に関する展示。1年生から10名の防災士が誕生</p>				

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
------	--	--	--	---------	----------

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	改善方法
------	------	-----------	----	--	----------	------

	全体レベル	評価指標	評価指標による達成度		総合評価・所見	
運営組織の活性化と教職員研修の充実	<p>7 学校の運営体制の充実 ・教職員一人ひとりが学校経営の当事者意識を持ち、課題解決に組織的に取り組む。 ・研修体制の充実を図り、コンプライアンスの推進と、リスクマネジメントの意識を培う。</p>	<p>〔企画広報課〕 情報セキュリティ研修を含め、年10回以上の注意喚起を行う。 〔コンプライアンス委員会〕 1)職員会議や職員朝礼等の機会をとらえ全職員に年間15回以上の啓発・研修を行う。 2)コンプライアンスに関する相談体制を確立・周知 3)予想される様々なリスクへの危機管理体制(報告・連絡・相談)を確立し周知する。 〔保健厚生課〕 教職員対象救急救命講習を1回実施する。 〔教育相談課〕 1)特別支援の対象となる生徒の指導について、校内で共通理解を図る。 2)心配な生徒一人ひとりについて共通理解を図るため、担任アンケートと情報共有するための会議を開催する。教員評価A</p>	<p>〔企画広報課〕 外部講師による研修会を始め、Joruri 掲示板や紙媒体を用いたセキュリティに関する情報や新システムの活用方法を月1回以上提示 〔コンプライアンス委員会〕 1)適宜実施した。 2), 3)4月に体制を整備し周知 〔保健厚生課〕 予定通り実施 〔教育相談課〕 1)共通理解を図るための研修会や教科会、特別指導委員会等を開催し、支援に努めた。 2)担任アンケートを実施し、教育相談課会で論議し、担任等の支援に努めた。教員評価A</p>		<p>〔企画広報課〕(評価) A Joruri 掲示板による情報発信を促進したい。 〔コンプライアンス委員会〕(評価) A 〔保健厚生課〕(評価) A 〔教育相談課〕(評価) B 計画通り実施できた。</p>	<p>特になし</p> <p>〔企画広報課〕 Joruri 掲示板による教職員対象の情報発信をより促進したい。 〔コンプライアンス委員会〕 次年度も教職員の自覚と誇りを育成し、風通しのよい職場を維持するための研修を実施。 〔保健厚生課〕 来年度も引き続き教職員対象の救急救命講習会を実施したい。 〔教育相談課〕 情報共有のあり方について議論の必要あり。</p>
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			

	<p>[企画広報課] 1) 職員のセキュリティ意識の向上 [コンプライアンス委員会] 1) 職員研修の充実・徹底 2) 職員間の情報交換を密にし円滑なコミュニケーションが図れる職場環境作り 3) 危機管理体制の確立と周知 [保健厚生課] 教職員対象の救急救命講習会の充実 [教育相談課] 特別支援を要する生徒や学校生活が困難な生徒へのケアを図る。</p>	<p>[企画広報課] 毎月1回程度の注意喚起を行う。 [コンプライアンス委員会] 1) 年間2回以上の推進期間及び適切な機会を設け、バランスのとれた研修や啓発を図る。 2) 相談体制を整え全体のサポート体制を作る。 3) 危機管理に関する具体的な事例に基づく研修を行う。 [保健厚生課] 救急救命講習会を1学期に実施する。 [教育相談課] 1) 教育相談研修を年1回以上実施する。 2) 不登校認定の依頼がある場合は特別支援教育委員会を開催して、現状について確認、今後の支援について話し合う。</p>	<p>[企画広報課] Joruri 掲示板や朝礼を利用して、月2回程度、情報提供 [コンプライアンス委員会] 1) 夏と冬にコンプライアンス推進週間を設け研修啓発を実施 2) 4月に28年度の相談体制を決定 3) 12月に実施 [保健厚生課] 予定通り教職員対象の救急救命講習を1回実施 [教育相談課] 1) 児童虐待をテーマにした研修会を実施 2) 計画通り実施</p>			
自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と改善方法	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
	全体レベル	評価指標	評価指標による達成度	総合評価・所見		
学校外との交流・連携やHPによる広報活動のさらなる活性化とボランティア活動を支援する校内組織づくりの推進	8 開かれた学校づくりの推進 ・学校評価を充実させ、保護者や地域から信頼される開かれた学校を目指す。	<p>[学校評価委員会] 保護者学校評価アンケートの回収率75%以上 [企画広報課] ホームページを月20回以上更新する。 [国際交流課] 各課、各教科等の円滑な連携と協力体制を整え、交流事業を充実させる。 [特別活動課] ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、延べ100名以上の参加を図る。 [総務課] 1) 各種 PTA 活動を活性化させ、広報活動を充実させる。2) 業務を円滑に遂行する。</p>	<p>[学校評価委員会] 保護者学校評価アンケートの回収率は、79.7%と目標を上回った。 [企画広報課] 月平均40回程度の更新が行われた。 [国際交流課] 各課、各教科等の円滑な連携と協力体制を整え、交流事業を充実させることができた。 [特別活動課] ボランティア活動への参加数は、4月の「とくしまマラソン」へ120名余り、12月の「加茂地区もちつき」へ30名余り。 [総務課] 1) 活動内容に保護者の意見を取り入れ改善した。 2) 各会議、研修、行事を円滑に実施</p>	<p>[学校評価委員会] (評価) A アンケート回収率は目標を上回った。内容の見直しは小規模ながら、各課等で検討した。 [企画広報課] (評価) A 部活動の活動報告の更新を促進。外部への情報発信を続ける。 [国際交流課] (評価) B 姉妹校交流の受け入れは計画通りに実施、訪独が中止となった。次年度への改善点は見つけることができた。 [特別活動課] (評価) A 参加人数は、4月当初に多くの生徒・教職員が参加。その後の活動にも昨年同様の参加数があった。 [総務課] (評価) B 会議の回数は昨年と同じ。出席率は昨年とほぼ同じだった。</p>	<p>ホームページはよく更新されている。さらに保護者が見たくなるようなコンテンツを増やしてほしい。 保護者への連絡手段としての SNS などの活用を進めてほしい。</p>	
	下位組織レベル	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>[学校評価委員会] 学校評価を充実させ、次年度の更なる改善に役立てる。 [企画広報課] ホームページの充実 [国際交流課] 1) 国際理解教育の推進 [特別活動課] 生徒会や各種委員会を中心としたボランティア活動組織の確立。JRC 部を活性化させる取り組み。 [総務課] 1) PTA 活動の円滑な運営と充実 2) 学校行事・式典時における外部との連絡調整</p>	<p>[学校評価委員会] 学校全体で評価目標の見直しをするよう呼びかけ、取り組みの充実を図る。 [企画広報課] ホームページ更新について、部の顧問や課長を支援し、より迅速な情報の提供を行う。 [国際交流課] 姉妹校交流等で得た経験や知識を広く周知し、生徒および教職員一人一人が関わることでできる交流とし、内容を充実させる。 [特別活動課] 全校生徒並びに教職員へボランティア活動への積極的参加を呼びかける。 [総務課] 1) PTA 活動の各種連絡調整や企画提案を行う。2) 城北祭や卒業式の渉外業務を行う。</p>	<p>[学校評価委員会] 学校全体で評価目標の見直しを呼びかけた。小規模の見直しに止まった。 [企画広報課] 大きな大会や試合の結果については多くの部活動で情報を発信できた。 [国際交流課] 姉妹校交流の受け入れについては教職員全員で取り組むことができた。 [特別活動課] 教職員のボランティア参加は延べ20名程度、地域等での参加なども多かった。 [総務課] 1) 4月21日理事会、5月14日総会、5月27日理事会、1月10日3学年部会 2) 9月4日文化祭、9月6日体育祭、3月1日卒業式</p>		<p>[学校評価委員会] 保護者や教員へ協力を呼びかけ、アンケート結果の信頼性を保つため、75%以上の回収率を目指す。評価目標の見直しは大きく変えられないのが現状である。 [企画広報課] 部顧問に働きかけ、早めの更新を促す。 [国際交流課] 1) 各課、各教科間との連携と協力体制をさらに強化させる。 2) 姉妹校交流を行う時期は、毎年検討し直す必要がある。 [特別活動課] ボランティア参加の人数では、計画していた数を上回る参加を募ることができたが、実際の活動内容の充実を図る必要がある。 [総務課] 総会、各会議や研修会の案内が確実に届くようにする。校内研修会の内容を保護者とともに検討する。</p>	